

市政に対する質問6

ところバスの利便性について

質 問	回 答
<p>路線別の利用者のニーズの把握調査を市民経済部としてはしたくない様だが、する必要が無いと判断しているのか、それともただ単にしたくないのか、それとも調査をするべきと言う問題意識がないのか？</p>	<p>・平成16年度の見直し後、次回の見直しを行う調査として、平成17年度に、利便性の向上や運行経費の適正化を目的に、長生クラブ加入者、自治連合会加盟者、市役所及び出張所来庁者、「ところバス」利用者を対象に、「ところバス」市民アンケートを実施いたしまして、741人の方のご協力・回答をいただきました。</p> <p>内容につきましては、利用回数、利用路線、時間帯、目的、高齢者の運賃負担などについての調査で、路線別ではなく、市内全路線を対象にしたものでございました。</p> <p>今後、見直しに向けて実施する際は、地域性もございませうことから路線別のご意見を集約できるような方法を検討してまいります。</p>
<p>ところバスに関する市長への手紙の状況を見ると、ダイヤ改正前は時刻に関する要望は無かったが、ダイヤ改正後42件中10件ダイヤの要望が来ている。今までところバスに対しては料金、増便、コースなどの要望があり時間については全く要望が無かった。これはところバスに対して新たなニーズが発生したと考える。この要因を担当部としてどの様に分析しているのか？</p>	<p>・市長への手紙におきましての時刻に関する要望の内容でございませうが、「公共施設に行くのに利用しているが時間が合わなくなった」、「運行時間を元に戻してほしい」というご意見をいただいております。</p> <p>この要因としましては、公共施設や駅などへ出かけるために、「ところバス」を定期的に利用されていた方が、時刻の改正によって、ご自分の希望する時間に目的地に着かないなど、ご不便を感じられるようになったものと考えられます。</p>
<p>現在のところバスの運行管理者は委託先の西武バスなのか？簡単に言えば西武バスが「ダメ」と言われたらダイヤ改正はすぐにできないのか？</p>	<p>・「ところバス」の運行につきましては、市と西武バス株式会社間で協定を締結しておりまして、運行管理者は西武バス株式会社でございませう。</p> <p>ダイヤの設定につきましては、市の考えを基にいたしまして西武バス株式会社と協議して決定しているところでございませう。</p> <p>その際、12台という限りある台数の中で円滑に運行できるよう、市内全</p>

	<p>体で各路線のダイヤを調整しながら設定を行なっております。 ダイヤを改正する際は、再度、各路線の調整を図りながら検討していくこととなります。</p>
<p>例えば高齢者の免許返上など市も奨励しているが、ところバスの利用状況を見ると高齢者の利用が多い。これからのところバス果たす役割を市としてどの様に考えているのか？</p>	<p>・「ところバス」につきましては、バス路線が整備されていない地域にお住まいの方、高齢者や障害をお持ちの方などの身近な交通手段としての役割を担うものと考えております。 ご指摘のとおり、「ところバス」は高齢者の方の利用が多く、高齢者の方からもコ-スや時刻に関する要望が寄せられていることから、これらの要望を参考にしながら見直しを検討し、さらなる利便性の向上を図ってまいりたいと考えております。</p>
<p>私が議員になる前の平成 17 年 9 月 20 日から 10 月 31 日にかけて「ところバス」市民アンケートを実施している。その際の調査項目では以下の項目だった。 住んでいる地域、性別、年齢、無料パスを持っているのか 利用しているかどうか、利用頻度、利用路線、利用時間帯 利用する際の料金、利用目的 無料パス制度の見直しについて、意見要望だった。 例えば北路線は並木地区(24.91%) 富岡地区(24.37%) と言う高齢化率が市内でも高い地域を運行している。並木地区と富岡地区は他の行政区より 5 % 高齢化率が高い。1 年に 1 % ずつ高齢化率が上昇していく本市において、5 年に 1 度ダイヤ改正するのでまさに他の路線の 5 年先の姿とも言える。 平成 17 年から 6 年が経ち利用者の状況にも変化が起き</p>	<p>・ご指摘のように、高齢化が進むにつれ、通院や日常の買い物など、高齢者の交通手段の確保の問題が生じてきていることは認識しております。また、「ところバス」の高齢者の交通手段としての役割も高くなるものと予想されます。 平成 2 1 年 9 月 2 8 日の見直し後、約 1 年半が経過し、見直し後も市民の皆様からは様々な意見や要望が寄せられているところでございます。 今後は、要望の集約だけでなく、多くの方からの「ところバス」の利用に関するニーズを把握するため、高齢者の交通手段の実情など様々な要素を考慮しながら調査ができるよう検討してまいります。</p>

<p>ている。今後の高齢化時代のダイヤ編成をするためにも、利用者に病院の利用者や買い物難民対策などのデータなどより詳細なニーズの再調査をする事を検討すべきではないか？(高齢化率の数字は昨年12月時点の数字)</p>	
<p>平成17年の調査方法に加え、より詳細なデータを収集するためにコストをかけない調査を実施するには、例えば市民意識調査の調査項目にしたり、介護認定の訪問調査をする際にところバスに関するアンケートなど調査員に訪問先に置いてきてもらうなど総合政策部や保険福祉部など他の部署との連携も図るべきではないか？</p>	<p>・「ところバス」利用者の声を聞き、ニーズを把握していくことが、大変重要であることは充分認識しているところでございます。 ご提案の総合政策部で行なっている調査事業に「ところバス」に関する調査項目を含めることや、保健福祉部で行なっている業務の際にアンケート用紙を配布するなど、調査方法につきましては、関係部署と調整を図りつつ、多くの利用者のご意見がいただける方法を検討してまいります。</p>